

ニュースレター

2022年7月

会員の皆様へ

一般社団法人 日本看護研究学会 九州・沖縄地方会会長 長家 智子



一般社団法人 日本看護研究学会九州・沖縄地方会会員のみなさま、お元気でお過ごしのことと存じます。

新役員に交代しまして1年が過ぎました。この間も新型コロナウイルス感染症患者の終息はかなわず、ウイルスと付き合いながらの日常が当たり前になっています。

このような中、会員の多くの方々が新型コロナウイルス感染症と向き合い、高い意識をもって日々奮闘されていることと思います。臨床の場での大変さを考えると、ただただ感謝するばかりです。

教育現場では、少しずつ対面授業が増えてきてはおりますが、感染対策で通常とは異なる気づかみや授業形態を求められることも多いと存じます。また、看護職の養成で大変重要な臨地実習も、まだ本来の形での実施には戻らず、学生の看護実践能力の向上のため様々な工夫をしておられることと思います。

会員の皆様のご苦労を心よりご拝察申し上げます。

さて、日本看護研究学会九州・沖縄地方会（以下、地方会）では、毎年学術集会を行っています。昨年は対面での開催を準備していただいたにもかかわらず、新型コロナウイルス感染状況による蔓延防止法の発令により、急遽 Web によるオンラインとのハイブリッド開催となりました。

第26回地方会学術集会長の三橋睦子氏をはじめ、久留米大学の皆様には本当にご苦労をおかけしましたが、有意義で学ぶことの多い学術集会となりました。第26

回地方会学術集会長の三橋睦子氏をはじめ、学術集会の運営に関わられた皆様に深く感謝いたします。

第26回地方会学術集会の概略につきましては、学術集会長の三橋睦子氏にまとめていただきました。また、この学術集会に参加し発表されました社会医療法人敬愛会中頭病院の宮城麻里子氏、第一薬科大学の佐藤宣子氏には、発表を終えてのメッセージをまとめていただきました。

皆様、どうぞ一読いただきますよう、お願い申し上げます。

本年度に行われます第27回地方会学術集会は、熊本保健科学大学の荒尾博美氏に学術集会長をお願いいたしました。順調に準備を進めていただき、「よりよい看護実践を目指す科学的探究」をテーマとして、11月26日(土)に熊本市で開催する予定となっております。

こちらの案内についても掲載しておりますので、ご確認頂きますようお願いいたします。対面での開催予定ですので、久しぶりに皆様とお会いできるのではないかと楽しみにしております。是非とも、多くの皆様にご参加いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、事務局を含め慣れないことばかりで、会員の皆様にご迷惑をおかけしているかもしれません。何かありましたら、どうぞ事務局までご一報下さい。

本事務局であと2年間、頑張ってお参りますので、会員の皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

*** 事務局より ***

- ◆ 2021年4月1日より事務局が変更になりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。
- ◆ ニュースレターは紙媒体を廃止し、ホームページ上に掲載することになりました。いつでもホームページにアクセスし、ニュースレターがご覧いただけます。

会員からのメッセージ

「日本看護研究学会 第26回九州・沖縄地方会学術集会に参加して」

第一薬科大学看護学部看護学科 佐藤 宣子

先般、日本看護研究学会 第26回九州・沖縄地方会学術集会にて発表させていただく機会を与えていただき、本当に貴重な体験となりました。学術集会長をはじめ、学術集会を運営して頂きました皆様に感謝致します。

コロナ禍ということで発表はあらかじめ録画したものを当日配信するという形でした。本来の発表であれば皆様の前で緊張しながらの発表だったのですが今回は何度も読む練習を重ねたうえで取り直しを繰り返すことができ、発表に不慣れな私でもどうにか発表を終えることができました。

録音された配信を聴くと、発表のスピードや読み方など、研究発表に慣れていらっしゃる会員の皆様にとっては、聞きにくいだけでなく内容も不足しており、指摘されたかった箇所も多かったことと存じます。直接ご意見や感想を頂くことがほとんどできなかった分しっかり振り返って、今後の糧にしていきたいと思えます。

私の研究テーマであります職業的アイデンティティは、看護専門職として基盤になるものです。今回の体験を活かし、今後は看護大学生やいろいろな看護師に対象を広げ、対面での発表に是非チャレンジをさせていただきたいと思えます。

社会医療法人敬愛会 中頭病院 宮城 麻里子

私は沖縄の病院で放射線治療室に勤務しています。がん放射線療法を受ける患者さんやご家族へより個別的なケアを実践できるようになりたいと考え、がん放射線療法看護認定看護師を志しました。

6月に久留米大学認定看護師教育センターに入学、4か月かけて知識と実践力を磨き、約1か月の実習では専門的実践とともに実践の言語化に取り組み、自分なりの気づきを得ることができました。臨地実習での気づきを共有した事例発表会を終えた12月、学術学会での発表をすすめられました。

私の中で学会発表は、とことん追求し考え抜いたものを形にするため「準備から時間がかかり大変」というイメージがあり、普段学会では聞く側だった私が、学会という大舞台上、しかもweb上で発表できるかと不安でした。事例発表会では実習での実践を具体的に論文として書き、その上でスライドに要約しましたが、学会では1000文字の抄録と7分間で発表するという制限がある中で伝える難しさや、さまざまな看護領域

の方々に理解を得るためにどうすればいいか、戸惑い悩みました。webでの発表のため、話す速度や声のトーンに気をつけ、何度も録音して聞き直しました。自分の声に違和感や照れくささを感じながら、10歳の娘にも聞いてもらい「読むの早いんじゃない？」と感想を聞きいては試行錯誤し、一つひとつ丁寧に作り込む体験ができました。無事、学会発表を終えることができたのは、教員や同期、娘のアドバイスなど周りの方々の支えがあったからです。修了試験と重なり時間的に切羽詰まり大変でしたが、教育課程にいたからこの機会を得ることができ、学修に集中できる環境の中でできた充実した時間だったと今しみじみと感じています。

患者さんからの学びと、自分が伝えたいという思いがあれば、発表につながるという貴重な経験になりました。これからも患者さんや私を支えている方々へ感謝を忘れず、臨床の中でも振り返る機会をみつけて、また学会発表に挑戦したいと思えます。

一般社団法人日本看護研究学会 第28回九州・沖縄地方会学術集会のご案内

- ◆ 学術集会長：鹿児島大学医学部保健学科 松成 裕子
- ◆ 会期・会場：令和5年11月18日（土）・鹿児島大学稲盛会館
- ◆ テーマ：時空を超え、学際的な看護の研究に挑む

一般社団法人 日本看護研究学会 第26回九州・沖縄地方会学術集会を終えて

学術集会長 三橋 睦子

日本看護研究学会第26回九州・沖縄地方会学術集会を、令和4年1月29日～2月13日の期間にWEBによるオンデマンドとのハイブリッドにて開催致しました。会員の皆さまをはじめ、多くの皆さまのご支援のもと、70名の方にご参加頂き、総再生数は328回で終了することができました。改めて、皆さまに心より御礼申し上げます。

第26回学術集会のメインテーマは「危機の時代 未来を切り開く力を育む」と致しました。昨今の頻発する土石流や豪雨災害、未曾有の地震や津波災害、2019年12月に発症した新型コロナウイルス感染症のパンデミックなど、いずれも最前線の現場で業務に関わっておられる看護職の献身的な看護実践なしでは乗り越えられるものではありません。こうした経験を大切に、次の時代の変化に備えるためには、それぞれの経験を共有する事が重要と考えました。また、健康支援者である現場の看護職者の方、看護教育・研究に関わっておられる方、院生、学生の皆さま方ご自身の健康や教育、研究活動を振り返って頂き、明日へのひらめきに繋がる機会となることを目指して企画いたしました。

特別講演では、「折れない心をつくる一流を目指すための支援」をテーマに、2021年の2020東京オリンピック78キロ超級柔道で金メダルを獲得した久留米市の素根輝選手のコーチの兒玉久美先生にご講演頂きました。今日の柔道は、むしろ人間が社会においてなす所の万般のことの指導原理とし、目標、計画、評価を学生自身が自立して考え抜けるよう指導する教育方法は、看護学生の教育道場に重要な視点として学ぶことができました。



<2020東京オリンピック柔道金メダリスト 素根輝選手>

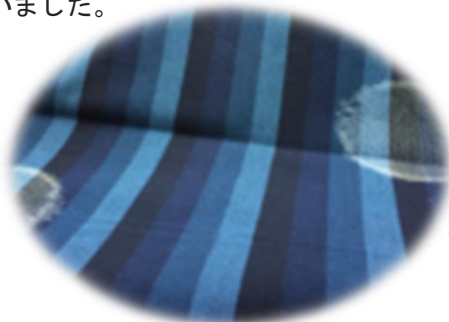
シンポジウムでは、「コロナ禍における健康危機管理を考える」をテーマに、漢方精神科、内科、小児科、産婦人科を標榜し診療・治療をされている恵紙英昭先生（久留米大学医療センター 副院長教授）、運動・スポーツによる健康支援・看護力を教育・研究されている鶴田来美先生（宮崎大学医学部 生活・基盤看護科学講座 教授）、熊本県の南部、水俣市久木野地区で森と棚田の「水俣市久木野ふるさとセンター・愛林館」の館長、沢畑亨先生の3名に、健康と漢方、自然と暮らし、スポーツとの関連についてご講演頂き、その様子をライブとオンデマンド配信致しました。講師の先生方で活発なディスカッションが交され、コロナ禍での非日常の健康の在り方について学びの多い内容でした。

ランチョンセミナーでは、「看護研究におけるダイバーシティの可能性」をテーマに、若者に研究の場を提供されている、青木浩樹先生（久留米大学循環器病研究所教授）に、循環器病研究所で実施されている、研究を支援するための組織づくり、経験要素を強化するプログラムについてご紹介して頂きました。研究経験が、若手医師の問題解決力、成長力、人間関係力向上に大きく貢献する事など、研究活動のもつ意味について知ることができました。

一般演題では、実践報告を含む19演題を口演として動画で、16演題を示説としてPDFファイルで、オンデマンド配信いたしました。

本学術集会は、COVID-19感染拡大防止のため、WEBによるハイブリッド開催とし、直接的な意見交換や交流は叶いませんでしたが、多くの皆さまにご参加頂き、これからの研究・実践の向上に繋がるものと感じております。

最後になりましたが、開催にあたり多大な御協力・ご支援を賜りました日本看護研究学会九州・沖縄地方会会長の長家智子先生をはじめ関係者の皆様、そして諸種の問題にも工夫・対処して頂いた企画委員・実行委員の皆様にご心より感謝申し上げます。有り難う御座いました。



<久留米緋>

メインテーマ 『よりよい看護実践を目指す科学的探究』

日本看護研究学会 第27回九州・沖縄地方会
学術集会長 荒尾 博美

このたび、一般社団法人日本看護研究学会第27回九州・沖縄地方会学術集会を令和4年11月26日(土)に熊本で開催させていただくことになりましたので、ご案内申し上げます。

2020年以降、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの影響を受け、日常生活とともに研究活動も制限を受けるようになってきていると推察いたします。しかし、どのような状況の中でも、日々の看護実践は行われ看護職は研鑽を続けています。本学術集会では、よりよい看護実践を目指した看護職の取り組みを皆様とともに共有する時間にしたいと考えております。会員の皆様をはじめ、多くの方々のご参加を心よりお待ちしております。

◆日時：2022年11月26日(土)

◆会場：熊本保健科学大学 3号館

◆プログラム

1. スペシャルセミナー

「ケア」することと「聞く」ことと

講師：小田豊二先生（聞き書き作家）

2. シンポジウム

企画中です。詳細が決定次第、ホームページでお知らせいたします。

3. 一般演題

◆演題募集期間：2022年7月4日(月)～2022年8月12日(金)

◆参加登録期間：2022年7月4日(月)～2022年9月30日(金)

◆学会ホームページ：<https://csk-inc.org/jsnr-kyu27/>

◆学術集会参加費

	会員	非会員	学生
事前参加申込み	3,500円	4,000円	大学院生 1,000円（抄録代含）
当日参加申込み	4,000円	4,500円	学部生無料（抄録代別）



◆学術集会事務局：熊本保健科学大学保健科学部看護学科内

〒861-5598 熊本市北区和泉町325番地

TEL&FAX：096-275-2136

Email：jsnr27kyu@kumamoto-hsu.ac.jp